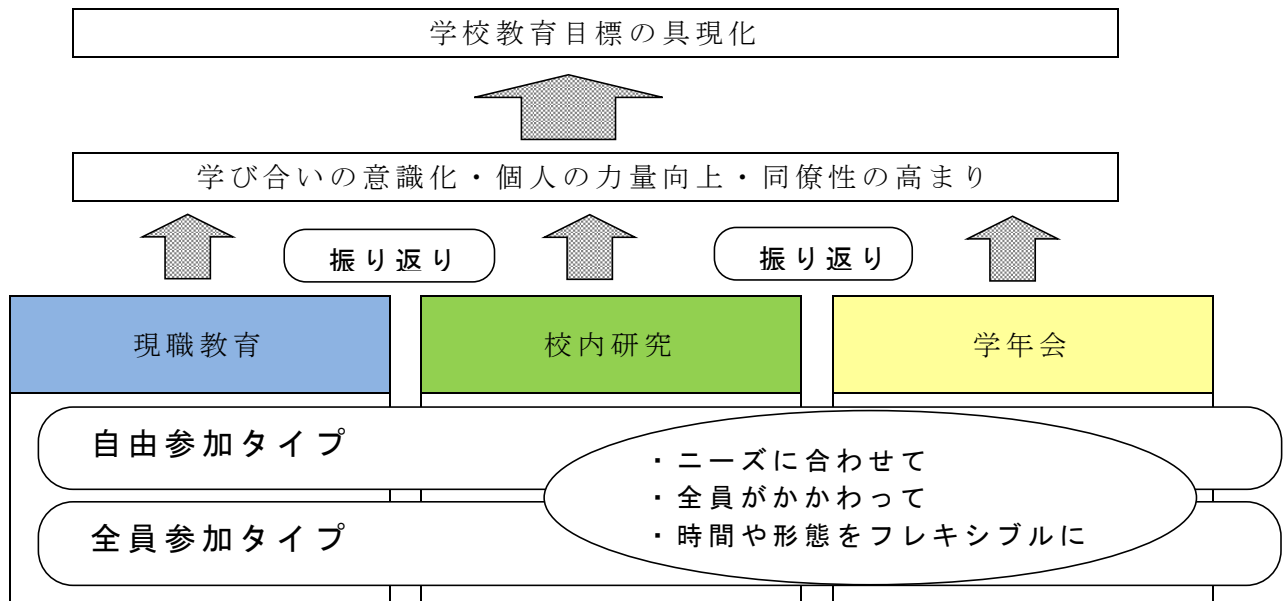


# 1 本校のOJT

- OJTは「**教育目標の具現化を図るもの**」と位置付ける。  
また、それを支える教職員一人一人と教職員集団の力量向上を目指す。
- 大規模校の利点を生かし、多様な人材を活用していく。
  - ・ **年齢，経験年数にとらわれず**に校内で講師を依頼でき、各学年会の人数も多く充実した話し合いが可能である。



## ファシリテーターの働きかけ

- ファシリテーターは**主幹教諭，研究主任，学年主任**で分担。
- **学び合える環境づくりときっかけづくり**を行う。
  - ・ 職員のニーズを把握し、学校に何が必要かを判断し、OJTの場を設定していく。
  - ・ だれがどのようなことに詳しいのかを知り、OJTの場が、学んだことを日常の指導に取り入れるきっかけの場になるように意識する。

## 学び合いの意識化

- **OJTを意識した学年会**の実施。
  - ・ 日常の指導に直結することが多い学年会では、学年主任をファシリテーターとし、教科指導や行事計画などの日々の課題へどう取り組んでいくかを明確にする。
  - ・ **定期的**に学年会を設定し、学び合いの意識化、日常化へとつなげる。
- **振り返りを掲示**し、学び合いの姿を**可視化**する。
  - ・ **学び合いの様子を共有**することで、その場に立ち会わなくても、学び合いの姿を感じ取ることができる。